

小型油圧引張試験機

カクタス SK-8T型

あと施工アンカー引張試験機

取扱説明書



適合サイズ

M8～M22

W5/16～W7/8

D8～D22



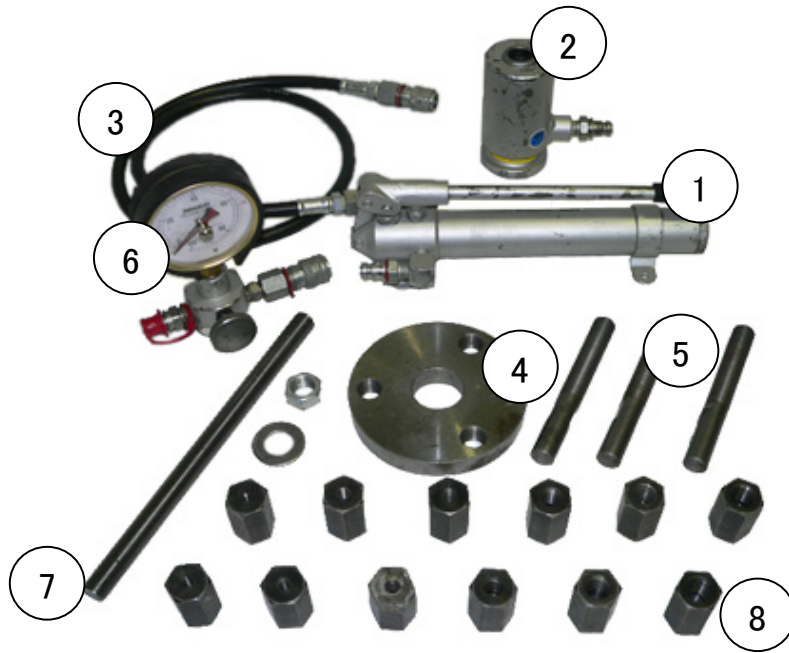
株式会社 トラスト

〒567-0029 大阪府茨木市五日市緑町5番32号
(TEL) 072-621-4164 (FAX) 072-621-4166

目 次

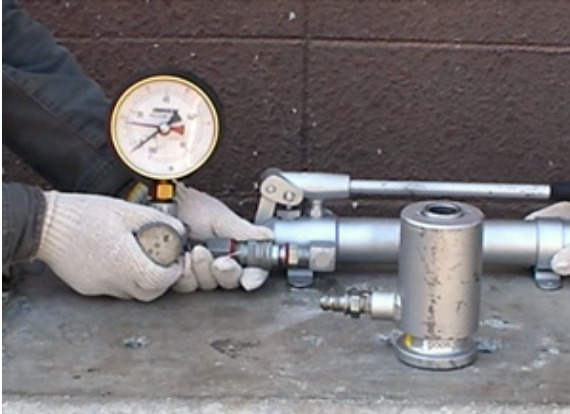
1,	各部名称	P-1
2,	組立手順	P-2~3
3,	操作手順	P-4~5
4,	注意事項	P-6

1, 各 部 名 称



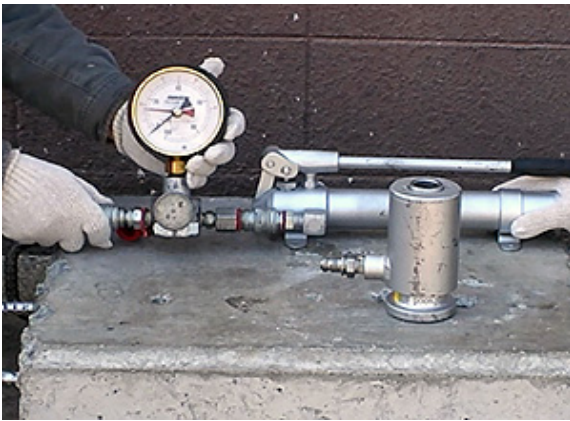
- ① 油圧ポンプ
- ② センターホールシリンダー
- ③ 油圧ホース
- ④ 反力台
- ⑤ 反力台調整ボルト(脚)3本
- ⑥ 圧力計
- ⑦ センターシャフト
- ⑧ カプラ(M8~M22、W5/6~W7/8)

2, 組立手順



① 油圧ポンプに圧力計を取り付けます。

⚠ ※圧力計のガラスは割れやすいので
ご注意ください。



② センターホールシリンダーとポンプ、
油圧ホースのキャップをはずし、
カチッと音がするまで押しはめ込みます。

⚠ ※カプラ同士をしっかりとめ込んで下さい。
隙間があると油もれや故障の原因になります。



③ 反力台調整ボルト3本をねじ込みます。

※ボルトの先端が3山ほど出る程度まで
ねじ込んでください。



④ アンカーサイズに適合した、カプラ
を取り付けます。

※めねじアンカーの場合は、寸切りボルトを
取り付けます。



- ⑤ センターシャフトをねじ込みます。
※カプラとの隙間が無くなるまでねじ込んでください

⚠ ねじ込みが不十分だとボルト等のねじ山が損傷し
ボルトや機械が飛び出して事故や怪我を招く恐れ
あります。



- ⑥ 反力台を設置し、センターシャフトと反力台が
直角になるよう反力台調整ボルトを
調整します。

※水平に置かれていないと偏荷重が架台及び
テンションボルトに発生し、ボルトや機械が
破損し事故や怪我を招く恐れがあります。



- ⑦ センターシャフトにセンターホールシリンダーを
通します。

⚠ ※壁面及び天井向きの場合、落下による怪我や
機械の破損が考えられます。
必ず落下防止措置を講じて下さい。



- ⑧ ワッシャー、ナットをセットして、全体的に
がたつかない程度に締め込みます。

3, 操作手順



- ① 圧力計の置針を”0”に合わせます。
(圧力計中央のつまみを回すと赤針が回ります)

目盛について…赤の数字がkN目盛になります

赤字:kN 黒字:MPa



- ② 出戻バルブを【ON】方向にゆっくり回します。
⚠ 停止するまで回してください。但し工具等を使用し
回すと破損の恐れがありますので必ず手で
回してください。



- ③ ハンドルをゆっくり上下に繰り返し、
設定荷重まで加圧します。

【加圧速度の目安】

$$\text{アンカーねじ径の有効断面積(mm}^2\text{)} \times \text{毎秒 } 0.02\text{kN/mm}^2 = \text{kN}$$

(例) M16の場合

$$157.0\text{mm}^2 \times \text{毎秒 } 0.02\text{kN/mm}^2 = \text{毎秒 } 3.14\text{kN}$$


⚠ 注意:ボルトの先端に顔、体を向けない



- ④ 赤の針の示す位置が引張荷重(kN)となります。
(1目盛:5kN)



⑤ 出戻バルブを【 OFF 】方向に
ゆっくり回して減圧します。

 注意…減圧時は、つまみを左にゆっくりと
回してください。いききに回す(減圧する)と
ゲージを破損する原因となります。

使用後

- ・出戻バルブを全閉にして下さい。
- ・油圧ホースを外して下さい。
- ・カプラには必ずキャップを付けて下さい。

4, 注 意 事 項

- 1, 説明書をよく読み理解してから、ご使用ください。
- 2, 指定用途以外には、使用しないで下さい。 損害、怪我を招く恐れがあります。
- 3, 圧力計には、急激なショックを与えないで下さい。 故障の原因となります。
- 4, 油を使用しているため、火気の附近や溶接作業を行っている場所では使用しないで下さい。
- 5, 使用中油温が60℃を越すと圧力が上がらない場合があります。 冷却後、使用して下さい。
- 6, 油が目に入った場合は、清浄な水で15分間洗浄し、医師の診断を受けて下さい。
- 7, 油が皮膚に触れた場合は、水と石鹼で十分に洗ってください。
- 8, 油を飲み込んだ場合は、無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受けてください。

『引張荷重について』

あと施工アンカー引張試験での引張荷重は、それぞれの現場、または、設計事務所に
よって多少異なる場合があります。

設定荷重値は設計事務所、または、現場監督に確認した後、引張試験を行って下さい。

本機は非破壊試験機です。母材の破壊やアンカーボルトの破断等のないよう、
加える荷重には十分注意してください。